

# ikuei

いくえい塾の指導理念

Message from IKUEI JUKU

## 自分できちんとできる子に

全国に学習塾がどのくらいあるか知っていますか？

およそ5万軒だそうです。「ゴマンとある」なんてオヤジギャグが聞こえてきそうですが・・・(^ ^)

そしてその数だけそれぞれの塾に指導理念があります。

いくえい塾の理念は

「自分できちんとできる子を育てる」です。

そのためのツールとして勉強を掲げているので学習塾を営んでいるわけです。

その目標が達成されるのなら、野球やサッカーでも構わないのです。

自分のことが自分できちんとできるようになれば、勉強に限らずなにをやっても大丈夫だと思っています。

きちんと自分で生きていける大人になれると思います。

では、きちんとできるとはどういうことでしょうか。

それは、「決められたことを、決められた時間までにやる」ことから始まると考えています。

小学1年生の最初に、「まず宿題をきちんと済ませてから遊びに行きましょう」と習います。まさにこれです。

宿題とは単に知識習得の為にすると考えるのではなく、社会生活を営むうえで必ず身につけておかなければいけない「決められたことを決められた時間までにやる」という基本習慣を身につける練習だと考えています。

だから、いくえい塾では宿題をとっても大切なものとして位置付けています。

決められたことをきちんとやる習慣が身につけば、次は「自分で考えてやる」という段階に自然にシフトしていきます。

中間試験や期末試験が近づいたのにいつまでたっても準備を始めない…。

親がその手伝いをするなどなど…。最悪です。

中学校でのテスト週間はテスト1週間前からですが、自分でやる子は3週間前くらいから準備を始めます。携帯やゲームを自分で封印して。

ここまでは分かった。でもこの先がどうしても分からない。だから教えて下さい。これが本来あるべき姿で、どんな子でもそうなれるのです。ただ、やり方が分からないのと、誰からもそういう指導を受けていないがためにできていないだけです。

現時点で自分に必要なものと考えてきちんと行動できる子を育てたいのです。

小学生から中学生の早い時期に「決められたことを決められた時間までにやる」という習慣を身につけさせる。そして中学を卒業するまでに自分のことは自分できちんとできるように育て、高校へ送り出す。

いくえい塾の指導理念です。

# いくえい塾



## やってみせ、言ってみせて、させてみせ、 ほめてやらねば、人は動かじ。

やってみせ、言ってみせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ。

子育てや部下の指導などの際によく引用される、山本五十六の名言の中でも有名な言葉です。どれも大切な要素だと思いますが、特に大切なのが「やってみせ」の部分だと思います。大人にとっては当たり前のことでも、子どもたちにしてみれば「初めて聞いたこと」って、大人が考えている以上に多いと思います。

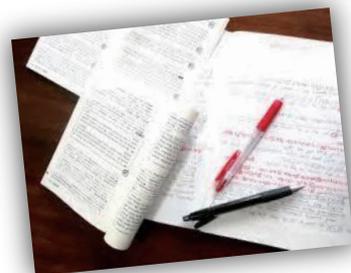
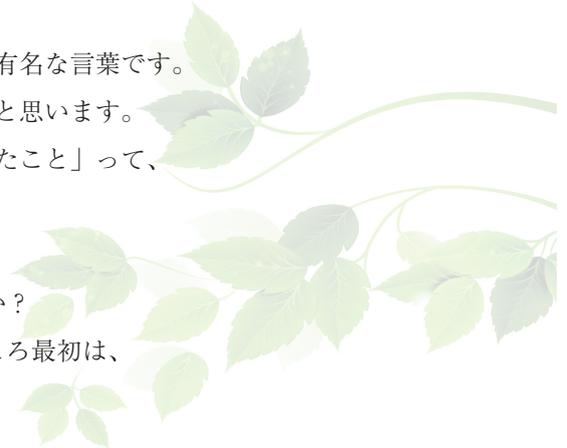
「聞いてないよ～」と子どもたちが言っているのを耳にしたことはありませんか？その都度、「言っていないからね(^ ^)」と言うようにしていますが、正直なところ最初は、「そのくらい自分で考えろ！」とっていました。

しかし、よく考えてみると自分もそうだったなあ～と思うことがあります。例えば学校の定期テスト対策。いくらやっても満足のいく点数が取れない。しかし、やっている勉強はいつも同じことばかり…。やっている本人は一生涯懸命だから、今まで以上に問題を解こうとします…。

大切なのは、テスト問題を見直して、自分が解けなかった問題を分析することです。その問題は、どの教材から出題されているのか？教科書からなのか、提出物からなのか、ノートからなのか、それとも…。そして次回はそこも勉強内容に入れる。

そのようなことを「やってみせ」るのが、いくえい塾の教師たちです。「努力」に「工夫」をプラスして、それが結果に結びつけば、後は自分たちで勝手にやるようになります。このような「やってみせ」を幾つか教えることで、自分で考え工夫しながら勉強するようになります。

勉強のやり方の幅を広げることも、いくえい塾の教師の大切な仕事です。



## まずはいっしょに 釣ってみよう

釣った魚を与えるのではなく、釣り方を教えなさい。

教育者としてあるべき姿を問われたときに、よく引き合いに出されるたとえです。

でも釣れるようになるまでは食べることができない……と、いつも思っていました。

だから、一人で釣れるようになるまでは一緒に釣りを楽しむことにしています。

最終目標は必要な時に一人で魚を釣れるようにすること！

いくえい塾の教師の最終目標は、子どもたちが一人で勉強できるようにすることです。

それまでは、楽しむことまでは難しいかもしれないけれど一緒に頑張る。

授業で…一から一人で考えさせるのではなく、上手な解き方があるのならそれを教える。

また必要な知識や技術は使えるようになるまで一緒に練習する。

宿題で…決められた事を決められた時間までに仕上げる習慣を身につけさせる。

テストで…目標に向けて努力し、結果を検証し次に活かすという習慣を身につけさせる。

ただ、一人で釣れるようになるまでは釣れた魚を与えることも必要です。

なぜなら腹が減ってしまうから…。

成績を上げる確実な方法は一人で勉強できるようにすることです。でも、それには時間がかかります。そこで、テスト対策が必要になります。でもテスト対策はあくまでも目先の魚です。これが目標ではないことを忘れてはいけません。

最終目標は一人で勉強できるようにすることです。



## 自分でやる + $\alpha$ = 高校生

「毎日が受験勉強みたい…」 「受験勉強の方が楽だった…」

高校生になったばかりの生徒が時々そんなことを言います。

高校生になると中学生の頃に比べて学習内容が大きく変わります。量が増え、桁違いに難しくなります。

当然、中学生の頃と同じように勉強していたのでは間に合いません。

高校の授業で1日に進む範囲はとて広く、しかも初めて習う難しい内容ばかり。

すべてをその場で理解できるわけがないのです。

習った内容を復習しようとしても、すべて覚えているわけではない。

そうこうしている内に分からない内容が雪だるま式に増えていくという仕組みです。

つまり、高校生になっても「後から追いかける勉強」を続けていたのではどんどん置いて行かれます。

高校生の勉強は、基本的に「予習型」です。

授業内容を予習し、分からない箇所や問題点を見つけておく。

そして授業中はそこに集中する。

それまでの「復習型」の勉強を「予習型」に切り替えるのです。

時間をかけてきちんとやる学習習慣が必要になります。さらに、忍耐力も。

しかし、いくら予習をして授業に臨んでも、解決できない問題が出てきます。

そこで、塾の先生が登場です (^ ^)

いくら考えても自分の力だけでは解決できない問題もあります。

しっかりと理解していて、しかも分かりやすく教えてくれて、

さらに納得いくまで質問することのできる存在があると、

とっても心強く安心して勉強できます。

ただこの場合も、「一から十まで教えて下さい」ではなく、「ここから先が分からないから教えてください」という問題解決型の質問です。そして、理解後はひとりでもできるようにまで繰り返し練習することを忘れずに。

あくまでも自分できちんとやるのです。

ところで、これって何かに似ていませんか？ そうです。大人は普通にやっていることです。

大切な商談や会議、さらにはちょっとした打ち合わせなどでも……。

あらかじめ準備をし、疑問点や問題点はその場で解決する。

高校生の勉強も、単なる知識の習得だけではなく大人になるためのより実践的な訓練なのです。



## 読み・書き・そろばん

「読み・書き・そろばん」——多くの人が「寺子屋」を思い浮かべるのではないのでしょうか。

江戸時代の終わり頃、日本に来た外国人は日本人の識字率の高さ（文字の読み書きができて理解できる人の多さ）に驚いたそうです。武士には藩校などがありましたから、ほぼ100%だったと言われても納得できます。しかし、庶民でも男子の半数以上が読み書きできたといいますから、当時の外国人でなくても驚きです。義務教育のない時代、この庶民の教育水準の高さを支えたのが寺子屋だったと言われています。

小学校の宿題の代表選手「音読・漢字ドリル・計算ドリル」。

なんとなく似ているように思いませんか？ そしてこの「音読・漢字ドリル・計算ドリル」、学力を伸ばすうえでの基本学習であるだけでなく、「物事に取り組む正しい姿勢・一つひとつきちんと丁寧にやる意識・あきらめずにやり続ける粘り強い心」を養うという目的も兼ね備えているのではないかと思えるのです。



## 読み——「音読」のすゝめ

### 音読

勉強するとき、机にうつ伏せてやったり、体のあっちこっちを掻いていたり、すぐにキョロキョロし始めたり、消しゴムや鉛筆や筆箱などいろんな物を机から落としたり…。いわゆる「落ち着かない」と言われる子どもの典型的なパターンです。

しかし、実は「じっと出来る力がついていない」のではないのでしょうか？ そう、「じっと出来ること」ってとても大切な能力の一つではないかと思うのです。そして、この「じっと出来る力」を養うのに便利なのが音読だと思うのです。

時代劇などで武士が正座して手を膝の上において書物を読んでいる姿、見たことはありませんか？

そこまでいけば免許皆伝ものだと思いますが、きちんと座って正しい姿勢で読める人には大きな能力が備わっています。

なぜなら、きちんとした姿勢で最後まで読み切ることは、気力はもちろんかなりの体力と集中力が必要な作業だからです。だから、特に低学年の子どもにとって教科書を1ページ読むということは、それだけでもかなり辛い重労働なはず。それを理解した上で、正しい姿勢で読み切る練習を繰り返えさせる。

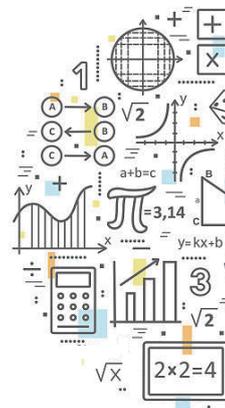
そして、少しずつでも「じっと出来る力」を養っていくことが音読の持つもう一つの目的ではないかと思います。





# ikuei

Messages from IKUEI JUKU



## 算数と数学の違い

**算数**…答えを出すことが目的

**数学**…式を作ることが目的

- ①中学校で出てくる数学の問題のほとんどは算数の解き方で解くことができる（解けないのは球の表面積と体積くらい）
- ②しかし解き方を知らないと式を作ることができないから、まず算数から始めて解き方（式の作り方）と計算力を身につける練習を繰り返す
- ③そして中学生になると式を作る練習と、その式の意味を理解して式を使いこなす能力を身につけ、さらに複雑な式を高校生で扱うようになる

例えば

目的地まで 1000m の道のりがあり、始めの 600m は分速 100m で歩き、途中から分速 200m で走った場合にかかる時間を求める。



### 算数

$$600 \div 100 + 400 \div 200 = 8$$

となり、答えは8分

ここで、目的地までの道のりと歩く道のりがかわった場合、その都度計算をしながら所要時間を求める計算を繰り返すことになる。



### 数学

目的地までの距離を  $x$ 、歩く距離を  $y$  とし、

$$y \div 100 + (x - y) \div 200$$

$$= \frac{x + y}{200}$$

という式を作っておく。（時間の求め方は算数と同じ計算方法）

あとは目的地までの距離と歩く距離を作っておいた式の  $x, y$  に代入するだけで所要時間を求めることができる。



式があると便利なことは、たとえ条件が変わったとしても数値の代入だけで答えが出せること——つまり数学とは、式（または公式）すなわちシステムを作ることと同じような計算の繰り返しを省き、さらに式を簡単にすることで誰でも同じ手順を踏めば同じ結果を楽に出せるようにするものである。

大人になれば、特に仕事などさまざまな場面でシステムを使う必要がでてくる。仕事内容が難しくなればシステムも複雑で難しくなり、理解して使いこなすにはそれなりの能力が必要になる。

『大人になれば方程式など使わない』と発言した大臣がいたが、計算方法を勉強することだけが目的なのではない。数学の勉強を通して、システムを作る能力や与えられたシステムを理解して使いこなす能力を身につけることなども養っているのである。

大人になってから困らないように。

# いくえい塾